

## 県立高校の魅力化について

### 1 テーマ設定の理由

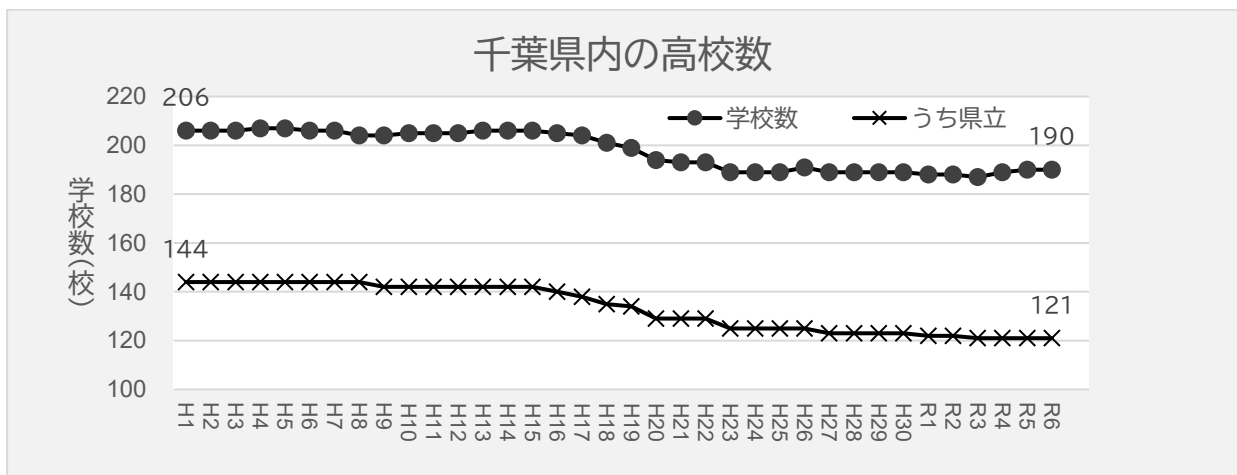
現在、国における高等学校等就学支援金の制度改正の動きがある中で、公立高校の果たすべき役割を踏まえた魅力ある県立高校づくりがますます重要になっている。県立高校が魅力ある選択肢であるためには、それぞれの学校が特色ある学びを展開し、生徒の可能性や能力を引き出していくことが重要である。

不登校やいじめ、貧困など、子どもたちの抱える事情や、高校に求められる役割も多様化しており、県立高校にはこうしたニーズに的確に対応するとともに、魅力化を図る必要があることから、本テーマを設定した。

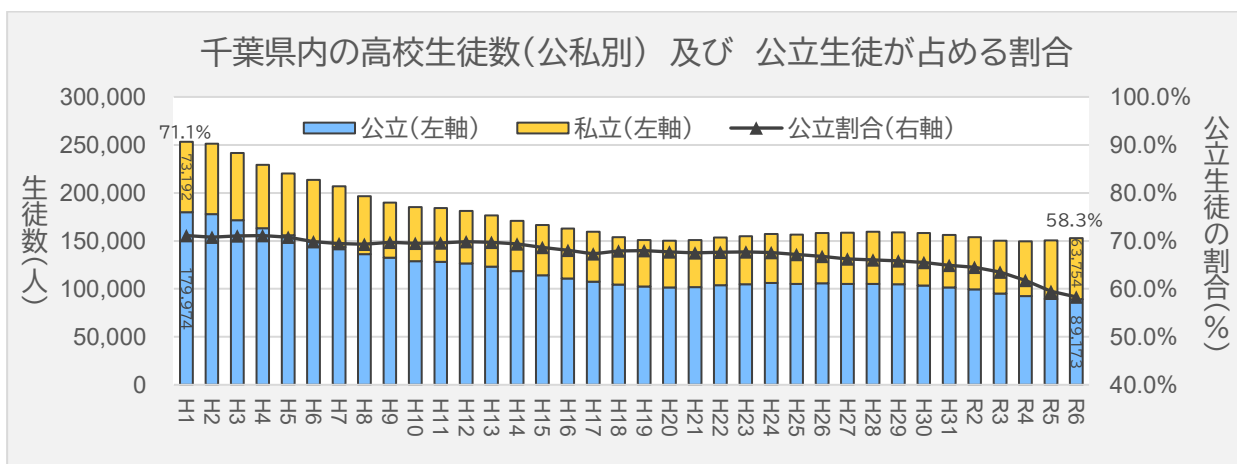
### 2 本県の高校教育の現状

#### (1) 千葉県の高校数、生徒数の推移

県内公立高校の学校数及び生徒数のピークは平成元年度であり、206校、約253,000人であった。その後、少子化が進行し、学校数は令和6年度には190校、生徒数は約153,000人となった。なお、同年の県立高校数は121校(定時制単独校2校、通信制単独校1校含む)であり、公立高校に在籍する生徒の割合は減少傾向にある。



【出典】千葉県教育便覧(県教育政策課) 全日制、定時制、通信制の合計



【出典】千葉県教育便覧(県教育政策課) 生徒数は全日制、定時制、通信制の合計  
※県内に居住し、県外に拠点を置く広域通信制高校に在籍する生徒は含まない

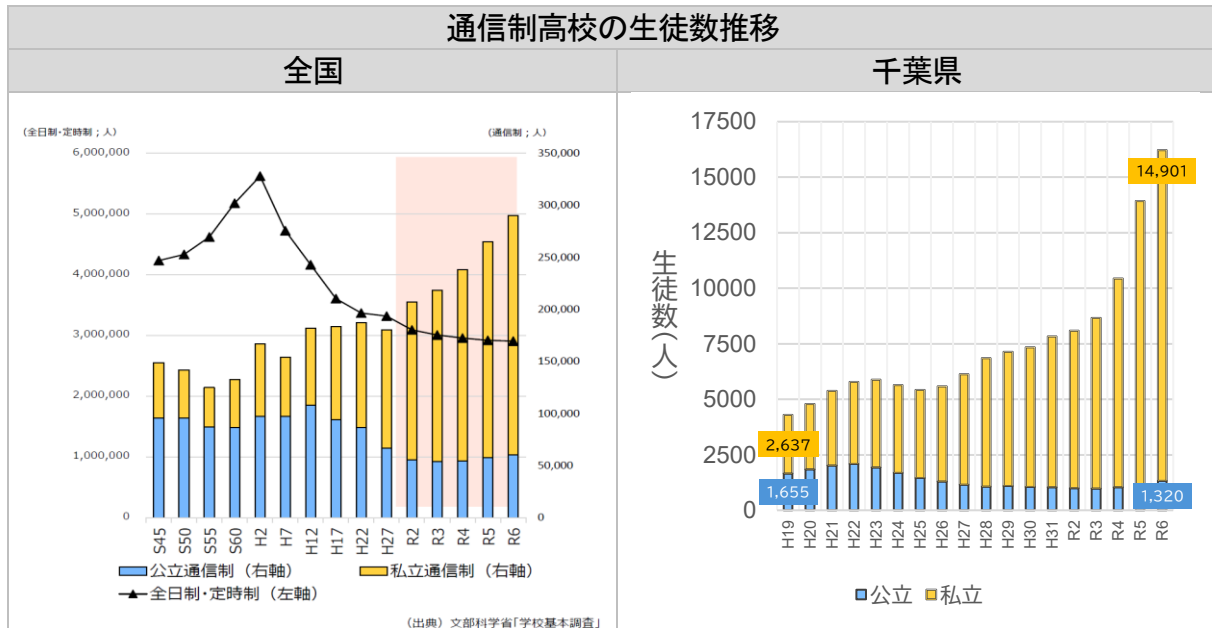
## (2) 県内の高校の配置状況

本県の公立高校数は 128 校であり、そのうち県立高校は 121 校、市立高校は 7 校である。また、128 校のうち、第 1 学区から第 3 学区までのいわゆる都市部に 76 校、第 4 学区から第 9 学区までの県東部・南部に 52 校を配置している。

※県内の高校所在図については別紙 1 参照

## (3) 通信制高校等への進学状況

多様な学習ニーズの高まりとともに、全国的に通信制高校への進学者が増加しており、本県においても同様である。特に私立通信制高校を選択する生徒の増加が著しい。



【グラフ出典】 国：高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ(R7.2) 参考資料集(文部科学省)

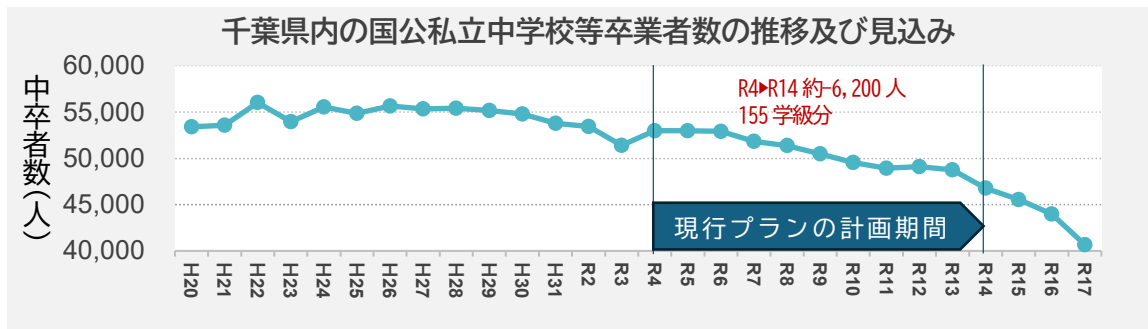
県：学校基本調査(文部科学省)をもとに県教育政策課が作成

※千葉県の生徒数には県内に居住し、県外に拠点を置く広域通信制高校に在籍する生徒は含まれない

### 3 本県の県立高校が抱える課題

#### (1) 中学校卒業生数の減少

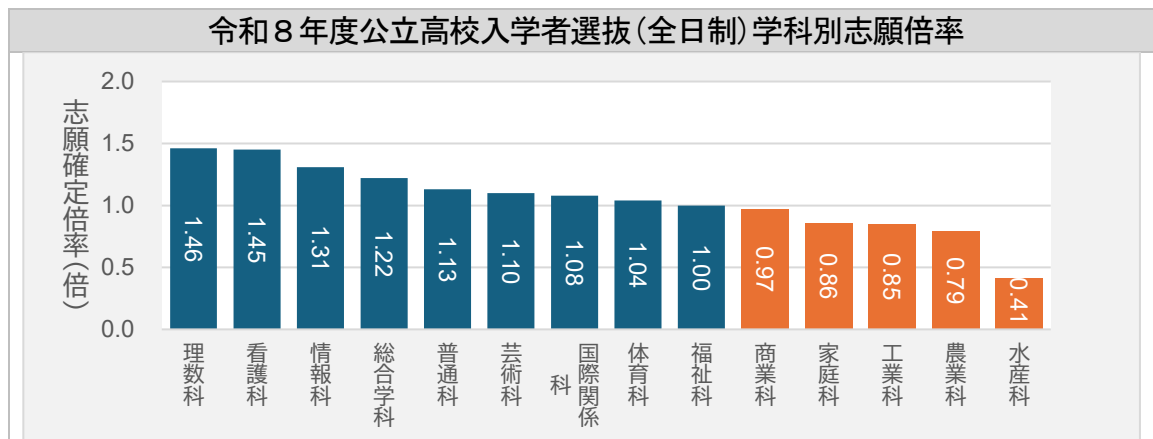
- ◇ 県内の中学校卒業生数は、「県立高校改革推進プラン」策定時（令和4年3月）の推計によれば、令和14年3月までの10年間で約6,200人減少することが見込まれている。
- ◇ 第1学区から第3学区までの、いわゆる都市部においても、10年後には約3,000人減少する見込みである。
- ◇ 第4学区から第9学区までの、県東部・南部においては、既に高校が点在している状況にあり、少子化に伴う小規模校化が進行することが予想される。交通の利便性に差があることから学校選択の幅において、都市部との差が拡大する。



【出典】学校基本調査（文部科学省）及び千葉県年齢別町丁字別人口調査（千葉県総合企画部統計課）を基に令和4年3月に教育政策課にて作成

#### (2) 専門学科の生徒募集

- ◇ 農業科、工業科、水産科などで定員割れしており、志願者の確保が課題である。
- ◇ 専門学科の定員割れによって、地域産業を支える人材育成の役割が十分に果たせなくなる。



※本検査の志願確定時点の倍率である

※橙色は倍率が1.00倍未満であることを示す

【出典】令和8年度千葉県公立高等学校入学者選抜における「入学志願者確定数について（詳細資料）」（県学習指導課）

## 【参考】本県の公立高校（全日制）学科別志願倍率の推移



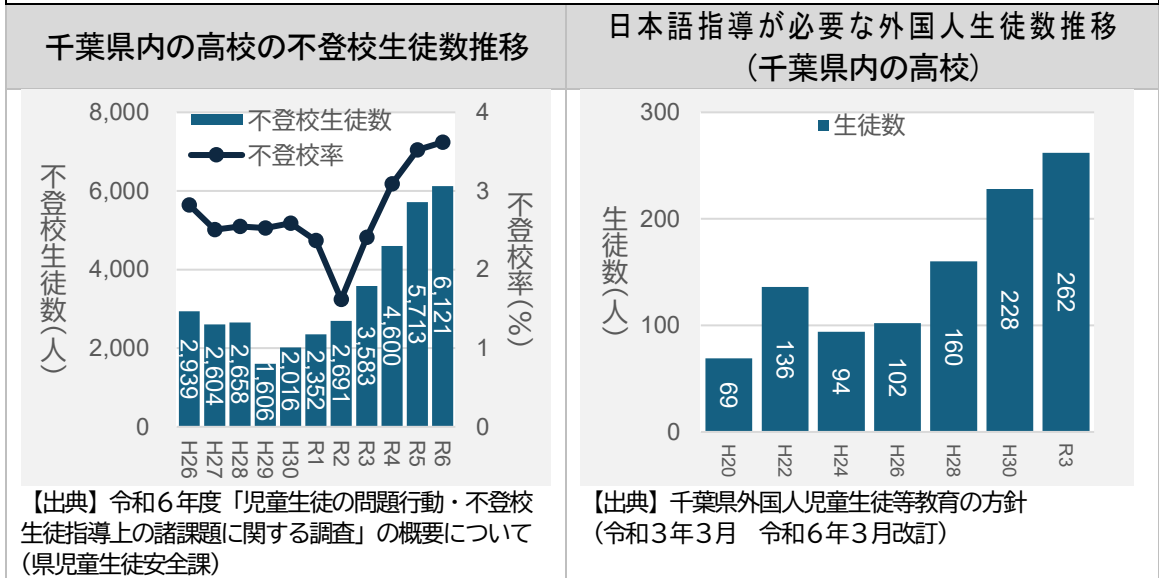
※本検査の志願確定時点の倍率

※橙色は倍率が1.00倍未満であることを示す

【出典】各年度の『千葉県公立高等学校入学者選抜における「入学志願者確定数について」及び「高等学校別志願者確定数一覧」について』（県学習指導課）の詳細資料から県教育政策課が作成

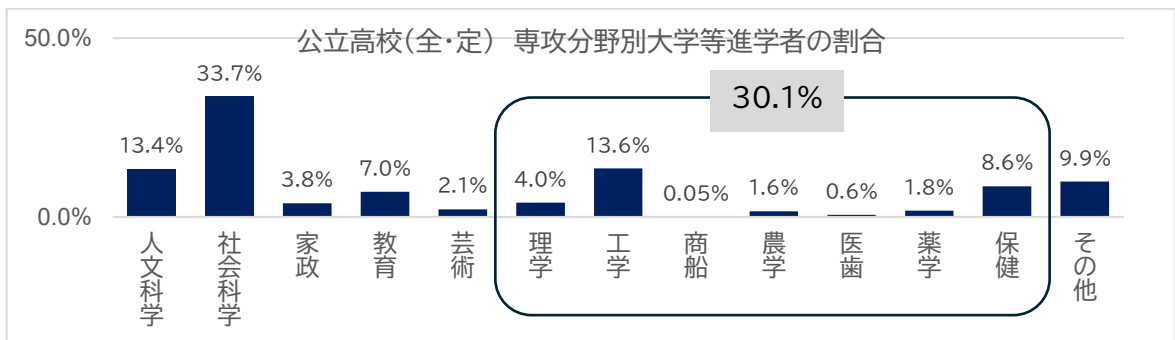
### (3) 多様な学習ニーズ

◇ 不登校生徒、日本語指導を必要とする生徒、特別な支援を必要とする生徒等が増加するなど、様々な入学動機や学習歴を持つ生徒等の多様な学習ニーズへの対応が求められている。



### (4) 理数系人材の不足

◇ 県内の公立高校から大学等への進学者のうち、理数系学部が占める割合は約30%。  
 ◇ 理数系人材不足は、本県経済を支える製造業や、今後の航空関連産業等の形成にも影響する。



	管理的職業	専門的技術的職業 うちAI・ロボット等の活用を担う人材	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械 運転	運搬・清掃・ 包装等		
	<b>全産業</b>	2040年の労働需要 (2040年の労働供給 ※現在のトレンドを延長した場合)	124万人 (175万人)	1387万人 (1338万人)	498万人 (172万人)	1166万人 (1380万人)	735万人 (786万人)	714万人 (724万人)	865万人 (583万人)	193万人 (169万人)
	供給とのミスマッチ	51万人	-49万人	-326万人	214万人	51万人	10万人	-281万人	-24万人	-146万人
	*2021年現在の就業者	143万人	1281万人	196万人	1420万人	834万人	880万人	885万人	244万人	516万人
	高卒	短大・高専等	大学理系	院卒理系	大学文系	院卒文系				
	<b>全職業</b>	2040年の労働需要 (2040年の労働供給 ※現在のトレンドを延長した場合)	2112万人 (2075万人)	1212万人 (1160万人)	685万人 (625万人)	227万人 (181万人)	1545万人 (1573万人)	83万人 (90万人)		
	供給とのミスマッチ	-37万人	-52万人	-60万人	-47万人	28万人	7万人			
	*2021年現在の就業者数	2735万人	1240万人	563万人	154万人	1332万人	70万人			

【出典】「2040年の産業構造・就業構造推計について」(2025年5月 経済財政諮問会議武蔵経済産業大臣提出資料)

## (5) 定時制・通信制高校のあり方

- ◇ 定時制高校は、かつては勤労青少年の学びの場であったが、現在は、社会人の学び直しや、様々な背景を持つ若者の多様な学習ニーズに応える場としての役割も担っている。
- ◇ 多様な生活スタイルに対応する昼間の定時制（午前部・午後部）や、本県で唯一の県立の通信制高校である千葉大宮高校へのニーズが高まっている。

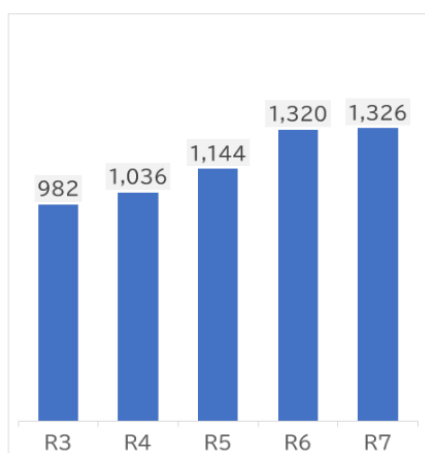
## 【県内定時制全体の志願倍率】令和8年度入学者選抜（本検査）

0.66倍（昨年度 0.57倍）

## 【三部制定時制高校の志願倍率】令和8年度入学者選抜（本検査）

- ・ 生浜高校（午前部）1.02倍（午後部）0.77倍（夜間部）0.20倍
- ・ 松戸南高校（午前部）1.21倍（午後部）1.30倍（夜間部）1.06倍
- ・ 佐倉南高校（午前部）1.08倍（午後部）1.09倍（夜間部）0.70倍

## 【千葉大宮高校の5年間の在籍生徒数推移】

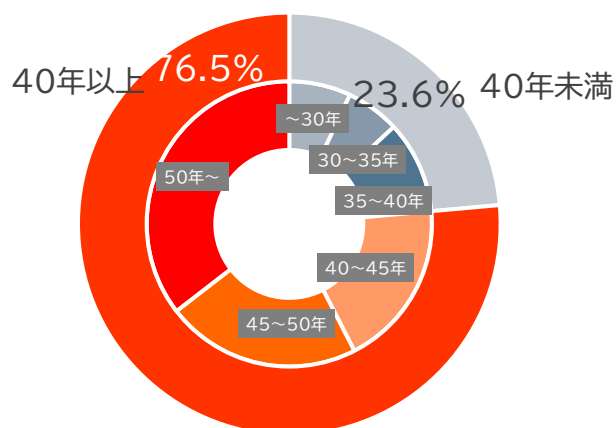


【出典】学校基本調査(文部科学省版) から5月1日現在の数値

## (6) 施設・設備の老朽化

- ◇ 県立高校の校舎の約8割が築40年以上である。
- ◇ 職業系専門学科における実習施設・設備の老朽化が進んでおり、7割超の備品が耐用年数を超過している。

## 本県の県立高校における建築経過年数



## 4 国の動向

令和8年2月、国は「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～」を公表した。

※別紙2参照

この中で、次の3つの視点から、高校改革の方向性を示している。

視点1 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

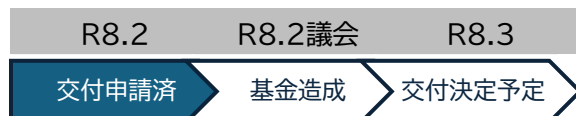
視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

また、本グランドデザインを踏まえ、都道府県において令和8年度中に「高等学校教育改革実行計画」を策定し、その計画を着実に実現できるよう、安定財源を確保した上で、「高等学校教育改革交付金（仮称）」等の新たな財政支援の仕組みを構築することとしており、新しい学校のイメージや取組例について、「専門高校の機能強化・高度化」、「普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化」、「地理的アクセス・多様な学びの確保」の3つの観点を示している。

こうした交付金等の構築に先立ち、令和7年度補正予算により、都道府県が造成した高校教育改革のための基金を活用し、パイロットケースとして上記3つの観点ごとに先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を支援することとしている。

## 今後の主な予定

基盤的支援 6,000万円/1都道府県あたり

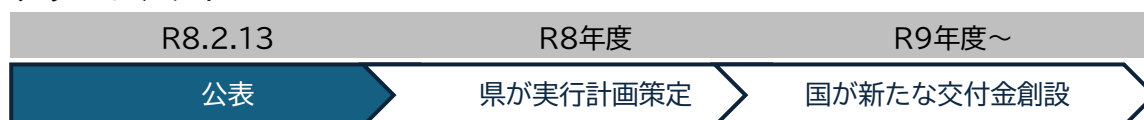


抜本的改革支援 上限62億円程度/1都道府県あたり



※期限ごとに国が審査を行い、交付の内定を行う。（3回の期限のうち1回のみ申請可）

グランドデザイン



【出典】・高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～（令和8年2月13日公表 文部科学省）

・高等学校等教育改革促進基金管理運営要領（令和7年12月26日 文部科学省初等中等教育局長決定）  
 ※令和8年2月13日 一部改訂

・産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業公募要領（令和8年2月 文部科学省）  
 上の資料をもとに、県教育政策課が作成

## 5 県の対応

### (1) 少子化に伴う小規模校化への対応

- ・八千代東高校・八千代西高校の統合（R10）学びの多様化学校（コース制）設置
- ・船橋豊富高校・船橋北高校の統合（R10）総合学科の設置（eスポーツの学び等導入）
- ・沼南高校・沼南高柳高校の統合（R10）通信制・定時制併置校（フレキシブルスクール）設置  
※統合に伴い、施設・設備の改修を進めるとともに、学びの魅力化を推進する。
- ・遠隔授業の試行（R8）九十九里高校・安房拓心高校

### (2) 専門学科の志願者確保に向けた取組

#### （学びの充実）

- ・茂原樟陽高校：農業経営者育成（アグリマネジメント）コース設置（R6）
- ・千葉商業高校：起業家育成（アントレプレナーシップ）コース設置（R6）
- ・一宮商業高校：観光コース設置（R6）
- ・松戸向陽高校：ふくしコンソーシアムちば設置（R6）
- ・銚子商業高校：海洋科に洋上風力発電に関する学びを導入（R9）
- ・大原高校：海洋科学系列で栽培漁業やマリンレジャーに関する学びの充実（R9）
- ・館山総合高校：海洋科に沿岸漁業に関する学びを導入（R9）
- ・水産系高校：県内遠隔地からの生徒募集開始（R8）
- ・工業系高校：学校と企業と連携し実践的なスキルを習得するデュアルシステム導入（R9）

#### （キャリア教育の推進）

- ・中学校教員の県立高校専門学科の視察研修（R7）
- ・「専門学科を体験しよう」事業 専門学科の教員や生徒が小中学校等で出前授業等を実施

#### （魅力発信）

- ・全県立学校及び県教育委員会に新情報発信ツール「note」導入（R8）

### (3) 多様な学習ニーズへの対応

- ・行徳高校、市原高校：地域連携アクティブスクール設置（R6）学び直し・実践的キャリア教育
- ・銚子商業高校：千葉大宮高校（通信制）の協力校に指定（R6）  
銚子商業で千葉大宮のスクーリングを受講できる。
- ・八千代東・八千代西の統合校：学びの多様化学校（コース制）設置（R10）
- ・八千代西高校：ウェルビーイング・ハイスクール設置（R7）  
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの重点配置等、福祉機関との連携強化。
- ・沼南高校・沼南高柳高校の統合（R10）通信制・定時制併置校（フレキシブルスクール）設置
- ・スクールカウンセラー(121人)・スクールソーシャルワーカー(69人)の拡充
- ・日本語指導相談員支援コーディネーター配置（R8：5校に配置）
- ・日本語指導のための授業翻訳支援アプリ活用検証事業（R8：3校に導入）
- ・通級指導の充実（県立高校15校に特別支援学校の教員を配置）

**(4) 理数系人材の育成**

- ・船橋：県の理数教育拠点校に指定（R6）
- ・SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）現在5校指定中  
船橋高校、佐倉高校、長生高校、木更津高校、（市立千葉高校）
- ・理数科の魅力発信事業  
高校理数科進学フェア「理数科で学ぼう！」
- ・STEAM教育の推進（県立12校）  
外部人材による教科横断型の理数の楽しさを体感する特別授業等を実施

**(5) 定時制・通信制高校の充実**

- ・**(再掲)** 沼南高校・沼南高柳高校の統合（R10）  
県内2校目の県立通信制・定時制（午前部・午後部のみ）併置校（フレキシブル・スクール）設置
- ・**(再掲)** 日本語指導相談員支援コーディネーター配置（R8：定時制3校に配置）
- ・**(再掲)** 日本語指導のための授業翻訳支援アプリ活用検証事業（R8）  
生浜高校・佐倉南高校（3部制定時制）、市川工業（夜間定時制）の3校に導入

**(6) 老朽化対策****○ 県立学校長寿命化対策事業**

- ・令和6年度までに大規模改修に着手できた高校は19校
- ・令和9年度までに大規模改修の着手を目指す高校は30校

**○ 県立学校トイレ改修事業**

- ・県立高校のトイレの洋式化率は48.6%（R7.4現在）
- ・令和11年度までに県立学校全てのトイレの洋式化を目指す

**○ 県立学校空調設備整備事業**

- ・普通教室は全校において整備済み
- ・職員室等の管理諸室は高校115校で整備済み
- ・特別教室は、熱中症リスクの高い教室から順次整備を行う
- ・今後、避難所に指定されている体育館への整備に着手する

**○ 県立高校エレベーター設置事業**

- ・これまでに18校に設置済み（R7.4現在設置率14.9%）
- ・設置校がない地域から着手し、令和10年度までに12校へ新たに設置する予定
- ・大規模改修工事での設置と合わせ、令和10年度末の設置率約4割を目指している

**○ 産業教育施設設備整備事業**

産業教育用の実習施設等の維持補修、実験装置・調理台などの設備や車両の整備等を行う。毎年、同規模の予算を計上し、予算の範囲内での維持補修・整備等の更新を実施している。

## (7) 県立高校と知事部局との連携

### ○企業とつなげる

- ・ジョブカフェちば事業
- ・中小企業人材採用・魅力発信サポート事業
- ・ワークルール講座
- ・中小企業の人材確保に向けた仕事体験促進事業

#### 【知事部局の役割】

キャリア教育の視点から、各企業の魅力を広く周知し、人材採用・定着を図るための機会を創出している。

### ○福祉とつなげる

- ・課題を抱える高校生の居場所設置・相談支援事業（居場所カフェ）

#### 【知事部局の役割】

貧困や家庭環境など様々な原因により困難な状況にある子供を早期に発見し、福祉的な支援につなげていくため、中核地域生活支援センターと福祉団体等が連携して、県立高等学校内に気軽に相談できる居場所をつくる。

### ○進路の選択肢を広げる

- ・未来の名工チャレンジ事業
- ・ものづくりマイスター事業
- ・千葉県介護職の理解促進・魅力発信事業
- ・千葉県介護の未来案内人事業

#### 【知事部局の役割】

各職業分野の理解促進を図り、進路及び職業の選択肢を広げることを目標とし、就業促進につなげていく。

## (8) 県立高校の魅力化と知事部局の連携

○地域連携共同校を指定し、地域社会に関する学びを導入（多古高校・市原高校）。

○地域の特性を生かし、令和9年度から知事部局と連携した探究的な学びを実践。

#### 【多古高校】

成田空港に近接する立地を生かし、グランドハンドリング（地上支援業務）や保安検査場業務等、空港関連の人材育成を目指し、関係部局と連携した探究的な学びを実践する。

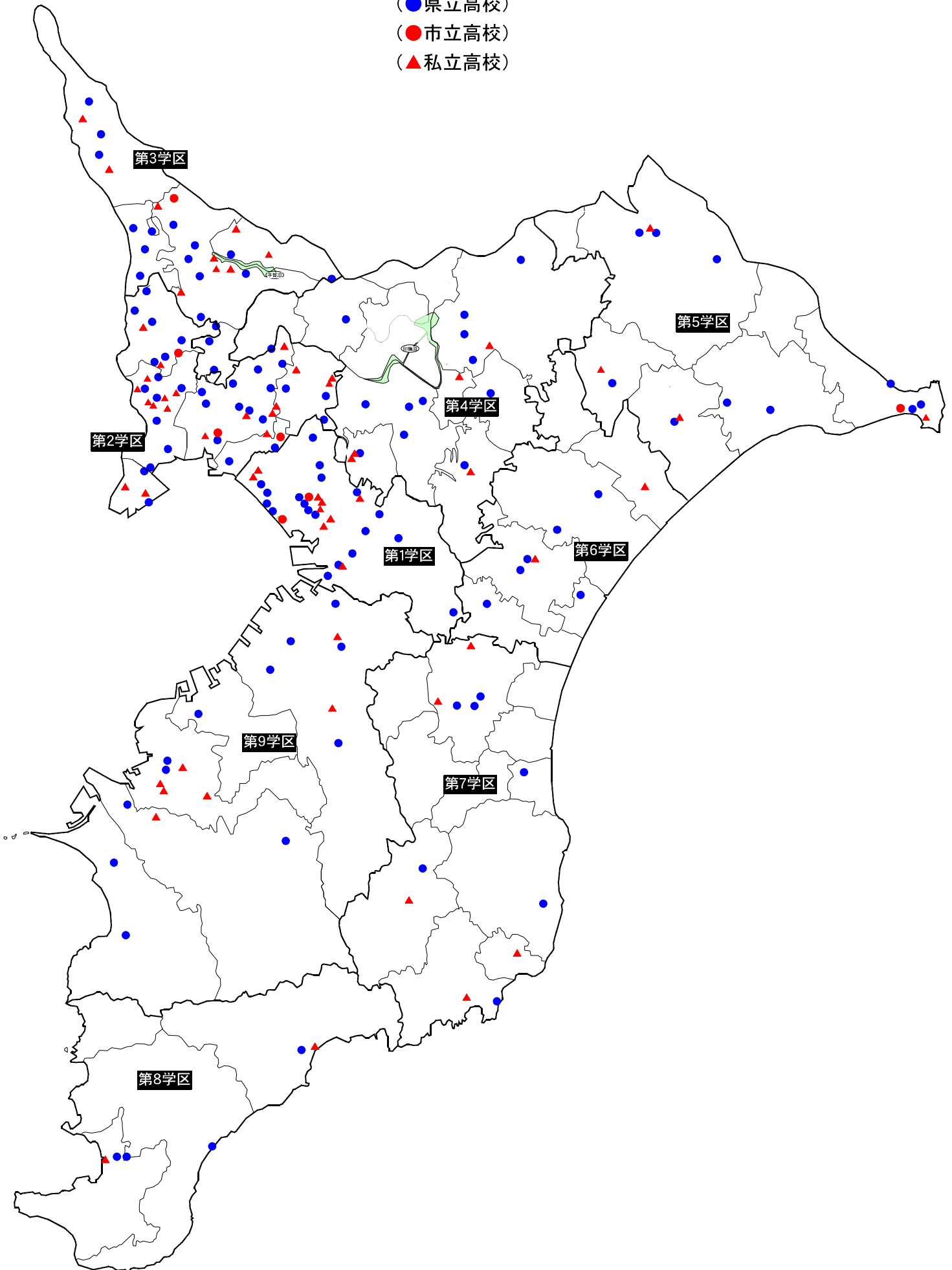
※ 地域社会に関する学び 地域連携協働校に指定した学校において、「総合的な探究の時間」等を活用し、地域を探究するほか、地域の方を講師として招くなど、学校と地域が連携・協働することで、将来、地域の担い手としてその発展に尽力・貢献する人材を育成する。

千葉県高等学校所在図（令和7年4月）

（●）県立高校

（●）市立高校

（▲）私立高校



# 高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】

## ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

### 1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展  
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化  
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップ**が発生  
(事務職は余剰、**AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足**)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない  
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心**に応じた**学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**  
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく**、希望する大学等への進学や就職等をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる



### 2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく  
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

- 学びの在り方の転換 (New Transformation)**
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、**「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保**し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
  - ✓ **スクール・ミッション、スクール・ポリシー**を踏まえた**教育活動の改善、公表**
  - ✓ **高校教育と一貫した大学教育改革**(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

- 最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence)**
- ✓ **探究・文理横断・実践的な学び**、STEAM教育、産業界と協働した**専門高校の学びの充実**  
→ **理数・文系的素養**や**AIを使いこなす力**を身に付け、社会で活躍する**ロールモデル**を体感
  - ✓ 各高校の**特色化・魅力化**  
→ **学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化**、**グローバル人材の育成**  
→ **「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education)**
- ✓ **全国どこにいても多様で質の高い学び**を保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す  
(**地理的アクセスの確保**、都道府県の実情等に応じた**学校配置・規模の適正化**、小規模校を含む**遠隔授業**等の推進)
  - ✓ **通信制高校の教育の質の確保・向上**
  - ✓ **不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導**が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。  
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

### 3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

国の  
高校教育改革に関する  
グランドデザイン策定

都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

安定財源を確保した上で、  
交付金等の新たな財政支援の  
仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成  
過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

#### 新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化  
(アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)



(学校のイメージ)

地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化  
(文理の双方の素養を有する人材の育成等)



(学校のイメージ)

文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保



(学校のイメージ)

学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

#### 2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校：100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校：100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合：同程度

【多様な学びの確保関係】

- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減